

パラリンピックとは

パラリンピックは障害者を対象とした、もうひとつのオリンピックです。4年に一度、オリンピック競技大会の終了直後に同じ場所で開催されています。2012年の第14回パラリンピック競技大会（イギリス・ロンドン）は20競技で行われ、史上最多となる164の国と地域から約4300人が参加しました。

パラリンピックに出場するには国際パラリンピック委員会(IPC)の定める厳しい選考基準をクリアしなければなりません。回を重ねるごとに選手層が増し、大会レベルが高くなっており、アテネ大会では448の大会記録と304の世界記録が更新されています。

「パラリンピックの歴史」

パラリンピックの起源は1948年、医師リードウィッチ・グッドマン博士の提唱によって、ロンドン郊外のストーク・マンデビル病院内で開かれたアーチェリーの競技会です。第2次世界大戦で主に脊髄を損傷した兵士たちの、リハビリの一環として行われたこの大会は回を重ね、1952年に国際大会になりました。

さらに1960年のローマ大会からはオリンピック開催国で、1988年のソウル大会からはオリンピックの直後に同じ場所で開催されるようになります。

もうひとつのオリンピック

当初はリハビリテーションのためのスポーツだったパラリンピックですが、現在はアスリートによる競技スポーツへと発展しています。出場者も「車いす使用者」から対象が広がり、もうひとつの (Parallel) + オリンピック (Olympic) という意味で、「パラリンピック」という公式名称も定められました。

「オリンピックとの協力関係」

2000年にシドニーで開催された第11回パラリンピック競技大会で、国際オリンピック委員会(IOC)とIPCが「オリンピック開催国は、オリンピック終了後にパラリンピックを開催する」などの基本事項に合意し、双方の協力関係を深めました。

こうしてパラリンピックは、「もうひとつのオリンピック」として、さらなる発展を続けています。

(公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会ホームページより転載〈2015年7月1日現在〉)